

東京ステーションギャラリー再開記念

生誕120年

木村莊八展

KIMURA SHOHACHI

2013年3月23日(土)―5月19日(日) [会期中展示替えあり]

東京ステーションギャラリー

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-9-1
Tel. 03-3212-2485 <http://www.ejrcf.or.jp/gallery/>
交通: JR東京駅 丸の内北口 改札前(東京駅丸の内駅舎内)

休館日 | 毎週月曜日(月祝の場合は開館、翌火曜休館) | 開館時間 | 平日: 午前11時―午後8時 / 土・日・祝: 午前10時―午後6時(入館は開館の30分前まで)
主催 | 東京ステーションギャラリー(公益財団法人東日本鉄道文化財団) / 東京新聞 | 企画協力 | 一般社団法人春陽会

入館料 | 一般: 900円 / 大・高生: 700円 / 中・小生: 400円 ※20名以上の団体は100円引き ※障害者手帳等持参の方は100円引き、その介添者1名は無料

TOKYO STATION GALLERY



(浅草寺の春)(部分) 1936(昭和11)年 公益財団法人 北野美術館蔵

木村莊八展

KIMURA SHOHAACHI



大正元年(1912)年に画壇にデビューし気鋭の洋画家と目された木村莊八。大正期は、西洋の先進的な美術情報を積極的に集め、得意の語学力を用いて精力的に紹介、同時に自らの絵の行く先を模索しました。

その先にあったのは、彼がよく知る身近な「東京」という題材でした。

舞台美術を考案し、小唄の師匠をするなど、幅広い面を持つ文化人であった莊八のことを、交友のあった文芸評論家は、「生粋の江戸っ子」であり、「東京にまみれた」人だと評しています。



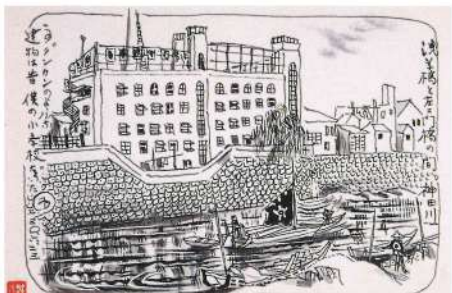
《新宿駅》1935(昭和10)年 東京国立近代美術館寄託



《滬東綺譚 挿絵8》1937(昭和12)年 東京国立近代美術館蔵



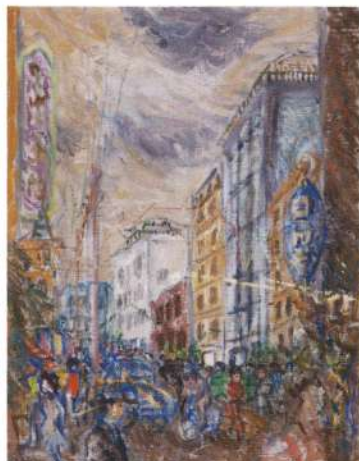
《東京繁昌記(挿絵)》1958(昭和33)年 小杉放電記念日光美術館蔵 *



《東京繁昌記(隅田川兩岸一覽)》1955(昭和30)年 小杉放電記念日光美術館蔵 *



《壺を持つ女》1915(大正4)年 愛知県美術館蔵



《銀座みゆき通り》1958(昭和33)年

木村莊八(きむら・しょうち:1893-1958)は、明治26(1893)年、東京・日本橋のいろは牛肉店第八支店に生まれました。京華中学校卒業後、いろは牛肉店第十支店(浅草)の帳場をまかされます。同時に、兄・莊太の影響で文学や洋書に興味を持って読みふけり、小説を書くなどしますが、1911(明治44)年、長兄の許しを得て葵橋洋画研究所(旧白馬会研究所)に入り、画家を志します。

そして岸田劉生に出会い交流を深め、1912(大正元)年、斎藤與里の呼びかけで劉生らとともにフェウザン会の結成に参加、翌年には東銀座(采女町)の第三支店を離れて独立、美術に関する翻訳や執筆を続けながら、洋画家として活躍を続けました。1915(大正4)年、草土社の結成に参加、1918(大正7)年に第5回再興日本美術院展で犇牛賞を受賞しました。1922(大正11)年の春陽会設立に客員として参加し、2年後には正会員となり、同会にて代表作を発表、1935(昭和10)年からは事務所を引き継ぎ、会の運営を支えました。

1924(大正13)年以降、挿絵の仕事が増え、1937(昭和12)年に永井荷風の新聞連載『滬東綺譚』の挿絵を担当、東京の下町風俗を独特のタッチで情緒深く表現し、大衆の大人気となりました。彼は西欧の美術を翻訳紹介するグローバルな視野を持ちながら、江戸につらなる感覚、身近な風景、そこに住む大衆の風俗といった、自らが住む東京を幅広く、時には狭く深く切り取りながら、絵や文章で表現しました。その集大成ともいえる『東京繁昌記』(没後の刊行)の絵と文により、亡くなった翌年の1959(昭和34)年、日本芸術院賞恩賜賞を受賞したのでした。

本展では、莊八の代表作《パンの会》(1928年)、《牛肉店帳場》(1932年)、《浅草寺の春》(1936年)といった油彩等約70点、『滬東綺譚』(1937年)34点、『東京繁昌記』(1958年)数十点の挿絵原画に加え周辺作家の作品も紹介します。東京での20年ぶりの回顧展にて、莊八描く東京界隈をお楽しみ下さい。



《牛肉店帳場》1932(昭和7)年 公益財団法人 北野美術館蔵

【関連イベント】

●ギャラリーツアー

企画展担当芸員による解説を聞きながら展示をご覧いただくツアーです。4月5日(金)・4月19日(金)15時~15時半

申込不要・参加費無料(別途要入館料)

※会場の混雑状況によっては参加人数を制限させていただく場合がございます。

●フレンドリートーク

当館の建物について、教育普及員による15分程度の解説を行います。

4月9日(火)・4月23日(火)・5月8日(水)各日10時半開始予定

参加方法等詳細は、当館ホームページをご覧ください。

■次回展

「エミール・クラウスとベルギーの印象派」

6月8日(土)~7月15日(月・祝)



交通: JR 東京駅 丸の内北口 改札前(東京駅丸の内赤煉瓦駅舎内)

東京ステーションギャラリー
TOKYO STATION GALLERY
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-9-1 Tel. 03-3212-2485
<http://www.ejrcf.or.jp/gallery/>